

Gemini 3.5 Flash × 特許調査：エージェント型ワークフローによる実務変革のロードマップ

Gemini 3.5 Flash の圧倒的なポテンシャル & ベンチマーク

4倍

他のフロンティアモデルを凌駕する「4倍」の出力速度

エージェントによる長時間の試行継続や変換タスクを、極めて低いレイテンシとコスト（標準比的50%減のBatch/Fles棒あり）で実行可能です。

100万

100万トークンの文脈窓で「情報の全体保持」を実現

明細書、請求項、引用候補、社合技術メモ、分野別シソーラスを一度に読み込ませ、文脈を維持したまま高度な検索・分析が可能です。



エージェント性能を支える「標準ツール連携」

Function calling, Structured outputに加え、Google Searchやコード実行、MCPサーバ接続を標準サポートし、複雑な継続ワークフローに適合します。

| ベンチマーク指標 | Gemini 3.5 Flash | Gemini 3.1 Pro | GPT-5.5 (参考) |
|--------------------------|------------------|----------------|--------------|
| GDPval-AA Elo (エージェント性能) | 1656 ✓ | 1314 | 1769 |
| MCP Atlas (ツール利用) | 83.6% | 78.2% | 75.3% |
| Terminal-Bench (CLI操作) | 76.2% | 70.3% | 78.2% |

DDPval-AA Eleコア「1456」をマーク：実証的な価値を標したベンチマークで、前世代 (Gemini 3.1 Pro 1314) を大躍り上回り、画期的なエージェント実行能力が証明され、実機に即した「エージェント技能」の鮮明：単なる知識の正確率ではなく、Web検索やシェル操作を伴う「外観場下でのタスク実行能力」が顕著的に向上しています。

推奨ワークフロー：特許調査マルチエージェント構成



導入のガードレールとリスク管理

「法的判断」は代替不可、人間による最終レビューをハルシネーション（もっともらしい振り）のリスクを考慮し、AIは「見せる・並べる・視察を抜く」補助役に徹し、判断責任は人間が持ちます。

データプライバシーの厳守 (Paid APIの利用) 未公開発明を扱う際は、入力データが学習に利用されない「Paid Services」や「Zero Data Retention」オプションの選択が必須です。

実務メトリクスによるPoCの実施 単なるAIの属率ではなく、「取知の重要文献をどれだけ再発見できたか」という業務直結の指標で効果を測定します。